

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学課外講習（基礎）	2	1年・1類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	新編 数学I、新編 数学A（数研出版）	Study-Up ノート 数学I・A（数研出版）	

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、
数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つの観点に基づいて行う。
具体的には、取り組む姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	(数学A) 第1章 数と式 第1節 整式	整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解	展開、因数分解が速く・正確にできる
	5	(数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定	平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。
	6	(数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式	絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする	絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	7	(数学I) 第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小	2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数の最大・最小 最大・最小の応用 2次関数のグラフとx軸との交点	
	7	第3節 2次方程式と2次不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次不等式の解を求めることができるようにする。	2次関数のグラフと2次不等式	グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。	順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列・組合せの問題を解くことができる。
	10	(数学I) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。 図形に応用できる。
	11	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第2節 確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。	試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率	確率を正確に計算することができる。
	12	(数学I) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。
		第2章 集合と命題	集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。	集合の表し方、集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶	集合の要素の個数を求めることができる。
三 学 期	1	(数学I) 第5章 データの分析	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	度数分布表、ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数、分散・標準偏差	
	2				
	3	(数学II) 第1章 式と証明	式と証明についての理解を深める。	2年次の内容に入る。(数II) ・整式の除法と分数式	多項式の計算が正しくできる。
		(数学A) 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	平面図形、空間図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線	三角形の重心・外心・内心に関する角度および長さを求められる内接四角形の性質を理解し、角度・長さを求められる。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 数学I・Aの授業は早いペースで進んでいくので、本講習では問題集（Study-Up ノート数学I・A）の問題演習を基本とし、基礎的な学力の定着を図ります。基本問題を中心として行いますが、授業内容についていくためにも標準問題も取り入れつつ、日々の復習を大切にしていきます。真剣な態度で受講し、講習中だけでなく寮や自宅での学習習慣を身に付けていってほしいと思います。できなかった問題でも何度も繰り返し解くことで理解を深め、確かな学力を身に付けてほしいです。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
数学課外講習（指名者）	2	1年・1類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	新編 数学I、新編 数学A（数研出版）	Study-up ノート 数学I+A（数研）	

科目の到達目標
基礎的な知識・発想の修得と解答能力の習熟をはかる。これらの学習を通して規則性、数学的に表現・考察する能力を育て、
数学的な見方や考え方のよさと必要性を認識させる。1年次の基礎的学力の補充と必要な数学的能力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点の観点に基づいて
具体的には、取り組む姿勢・授業態度・出席状況などによって評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	(数学A) 第1章 数と式 第1節 整式	整式の演算、因数分解が確実にできるようにする。	多項式の加法と減法 多項式の乗法 さまざまな因数分解	展開、因数分解が速く・正確にできる
	5	(数学I) 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 2次関数の最大・最小	2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	2次関数のグラフと平行移動 2次関数の決定 2次関数の最大・最小	平方完成ができる。また、2次関数のグラフの関係を理解し、グラフをかくことができる。
	6	(数学A) 第1章 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式	絶対値記号を理解し、絶対値を含む方程式・不等式が解けるようにする	絶対値を含む方程式・不等式 実数 分母の有理化	根号を含む式の計算ができる
	7	(数学I) 第3章 2次関数 第3節 2次関数と方程式・不等式 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	2次不等式の解を求めることができるようにする。	2次関数のグラフとx軸との交点 2次関数のグラフと2次不等式	グラフを用いて、2次方程式・不等式を解いたり、解の個数を求めたりすることができる。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	(数学Ⅰ) 第2章 集合と命題	集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識する。	集合の表し方、集合の要素の個数 ド・モルガンの法則 命題と条件 逆・裏・対偶	集合の要素の個数を求めることができる。
	10	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ	具体的な事象の考察を通して、順列・組合せについて理解する。	順列・円順列・重複順列 組合せ 組合せと絡めた総合問題	順列・組合せの問題を解くことができる。
	11	(数学Ⅰ) 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理	三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。	鋭角の三角比 $180^\circ - \theta$ の三角比 三角比の相互関係	三角比の定義、基本公式を理解している。図形に応用できる。
	12	(数学A) 第1章 場合の数と確率 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率	順列・組合せを用いて確率を求める。事象を数学的に考察し処理することができるようにする。	試行、根元事象、確率の定義、排反事象、加法定理、余事象 独立な試行 反復試行の確率	確率を正確に計算することができる。
		(数学Ⅰ) 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 正弦定理と余弦定理の応用 三角形の面積 空間図形への応用	角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できる。	直線の傾きと正接 正弦定理・余弦定理とその応用	正弦定理、余弦定理を正確に利用できる。
		(数学A) 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質	平面図形の基本的な定理を習得し、思考力をつける	三角形の重心・外心・内心 メネラウス・チェバの定理 円周角の定理 円に内接・外接する四角形 方べきの定理 円と共通接線	三角形の重心・外心・内心に関する角度および長さを求められる内接四角形の性質を理解し、角度・長さを求められる。
三 学 期	1	(数学Ⅰ) 第5章 データの分析	統計の基本的な考えを理解し、データを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	度数分布表、ヒストグラム 平均値・中央値・最頻値 四分位数、分散・標準偏差	
	2				
	3	(数学Ⅱ) 第1章 式と証明	式と証明についての理解を深める。	2年次の内容に入る。(数Ⅱ) ・整式の除法と分数式	多項式の計算が正しくできる。
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 数学Ⅰの単位が3、数学Aの単位数が2である。授業は早いペースで授業を進められる。この講習では、問題集（テーマ数学ⅠA）の問題演習をする。数学Ⅰ、Aの授業についていくためにも復習を必ず行いたい。基本問題を中心に進めていくが、数学Ⅰ、Aの授業についていけるように標準問題も取り入れていくつもりである。真摯な態度で受講することを強く望む。日々継続した学習を心がけて、寮や自宅での学習習慣を身に付けてもらいたい。何度も何度も繰り返し問題を解いて、本当の学力をつけてほしい。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
大学入試準備講習	1	1年1類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	新編 数学I・A (数研出版)	チャート式 基礎と演習 数学I+A (数研出版)	

科目の到達目標
基礎的な計算力と解法の定石を身につける。また、発展問題等を扱い大学入試に直結する学力を養う。

評価の観点と方法について
評価は「知識、技能」「思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に向かう態度」の3つの観点に基づいて、
平素の学習意欲、学習態度、出席状況、小テストによって総合的に行なう。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数と式	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	展開・因数分解、無理数の計算、1次不等式、平方完成、2次方程式、2次不等式の計算練習を行う。その後、夏期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	5	実数			
	6	1次不等式			
	7	2次関数			
二学期	10	三角比	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	三角比の相互関係、三角比の値、正弦定理、余弦定理の計算練習を行う。その後、冬期講習を利用して、標準的、発展的な問題の演習を行う。 模試前には、模試対策を行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	11	三角比への応用			
	12				
三学期	1	データ分析	左記の単元で学習する公式・定理を身につけるための計算練習を行い、入試問題を解くために必要な基礎体力を身につける。	分散、標準偏差、相関係数 整式の割り算、分数式と計算、 3次式の因数分解の計算練習を行う。 共通テスト後には共通テストを行う。	出席している。 意欲的に取り組んでいる。 基礎的な内容を理解し、応用することができる。
	2	式と証明			
	3				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

大学への進学に対応できる力をつけることを念頭に授業を進めます。学力の定着を図るために、教科書や問題集で毎日、家庭学習をすることを求めます。また、授業の進度に合わせて課題を出します。日々の疑問を残すことのないよう質問に積極的に来てください。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
基礎講習（英語）	2	1年I類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	テキストは指定しない	必要に応じてハンドアウトを配布する	

【科目の到達目標】 (Purposes of the Course)

高校での英語学習に必要な基礎力の確認と並行し、大学受験に向けて英語表現を学びながら、より高い英語力習得を目指す。大学入試や実際の英語コミュニケーションで役立つ知識を学び、トレーニングを励行していくので、得手不得手を問わず、英語に興味を持つ生徒諸君の受講を歓迎する。

【評価の観点と方法について】(Grading Procedure)

本講習では、単元毎に理解度を測るための筆記及び実技のクイズを実施する。自分自身のためにも、積極的に取り組むことを期待する。

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
一学期	4		• これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語を読むとき、書くときに、意識の範囲を広げていく。	• ルールを学ぶ • 演習問題を通して表現に慣れる。 • 実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。
	5	• 授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。	• 英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。	
	6	• 受講生からの希望も随時反映しながら進める。		
	7			

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9		・ これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語を読むとき、書くときに、意識の範囲を広げていく。	・ ルールを学ぶ ・ 演習問題を通して表現に慣れる。 ・ 実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。
	10	・ 授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。	・ 英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。	
	11	・ 受講生からの希望も随時反映しながら進める。		
	12			
三 学 期	1	・ 授業で学習する単元の復習をしながら、通常の授業では扱えない内容にも積極的に取り組む。	・ これまでに学習してきた文法事項に加え、より多くの英語表現を学ぶことで、英語を読むとき、書くときに、意識の範囲を広げていく。	・ ルールを学ぶ ・ 演習問題を通して表現に慣れる。 ・ 実際に学んだ表現を用いて英文を書いたり話したりする。
	2			
	3	・ 受講生からの希望も随時反映しながら進める。	・ 英語への興味、関心を高め、能動的に英語学習に取り組めるようにする。	
【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】 通常の授業の復習をしながら、応用に発展させていきます。また、授業では十分にカバーできない単元や活動にも積極的に取り組んでいきたいと思います。単に問題を解いて答え合わせ・解説の繰り返しではなく、できるだけ英語の 4 技能 (Reading, Listening, Writing, Speaking) のトレーニングをバランスよく励行していきます。 講習内容の要望や、学びたい内容があれば、申し出てください。				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
指名者講習 英語	2	1年1類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	be English Logic and Expression I Clear	be Clear Essential Grammar Book / 総合英語 be be English Grammar 24	

科目の到達目標

中学時代の躓きを克服し、英語の基礎を身に着ける。
反復練習などを通して、日々の英語の授業内容をしっかり定着させる。
英語の学習習慣が身につく。

【評価の観点と方法について】

出席の状況、授業中の取り組みの態度、課題の提出の内容等を総合的に判断する。
特に出席状況と授業中の取り組みの態度を重視する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一学期	4	課題テストのやり直し 名詞・冠詞・代名詞 動詞、文の種類 否定文・疑問文	やりっぱなしにせず、答え合わせをする 授業を理解するために必要な文法の基礎を復習する。	課題テストの問題を使って、問題を解き直し、答え合わせをする。 肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文を適切に作り、それに応答することができる。感嘆文で驚きや感動を表すことができる。
	5	Lesson 1 現在形・現在進行形 Lesson 2 過去形・過去進行形 <中間考査>	自分のことや身近な人のことを紹介できる。 週末や休日にしたことを表現できる。	基本時制の概念をイメージとして把握し、伝えたいことを適切な時制・進行形で発話できる。
	6	Lesson 3 未来を表す表現 Lesson 4 現在完了形 現在完了進行形	今後の予定などこれからのことについて表現できる。 旅行や移動、自分の経験について表現できる。	現在・過去・未来完了形の概念をイメージで把握し、現在形や過去形と区別する。
	7	Lesson 5 過去完了 過去完了進行形 <期末考査>	学習や学校での活動について表現できる。	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	
二 学 期	9	Lesson 6 助動詞① Lesson 7 助動詞② Lesson 8 助動詞③	助動詞のそれぞれの意味と用法を理解し、適切に使い分けて表現することができる。	1 学期に同じ	
	10	Lesson 9 受動態 ＜中間考査＞	受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切に伝えることができる。		
	11	Lesson 10 不定詞① Lesson 11 不定詞② Lesson 12 不定詞③	不定詞の様々な用法を学び、より詳細な情報を伝えることができる。		
	12	＜期末考査＞			
	1	Lesson 13 動名詞	動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができる。		1 学期に同じ
	2	Lesson 14 分詞① Lesson 15 分詞②	名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができる。		
	3	＜学年末考査＞			

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

まず、最も大切にしてほしいことはふだんの授業です。授業をしっかりと受け、自ら理解しようとする気持ちがなければ、指名者講習を受けても意味がありません。この講習では、日々の論理表現の授業内容の理解及び定着を中心に授業をします。定期考査前には英語コミュニケーションの復習もします。まずは中学時代の躓きを自分で見つけ、中学校の復習をしっかりとしましょう。自分はどこに躓いているのかをはっきりさせ、わからないところは放っておかず、その日のうちに理解するようにしましょう。分からないことがあれば遠慮なく質問してください。理解してもらえるまで何度でも説明します。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
入試準備講習（英語）	1	1 年 I 類	
授業担当者	教科書名	副教材等	
****	『総合英語 be』（いゐずな書店）	『総合英語 be 暗唱例文集+確認問題集』（いゐずな書店）	

【科目の到達目標】 (Purposes of the Course)

本講習では、大学受験に向けて通常の授業の復習に加え、応用問題にも取り組みながら、より高い英語力習得を目指す。主に「論理表現 I」 の内容の補強を行う。

【評価の観点と方法について】(Grading Procedure)

本講習では、『総合英語 be 暗唱例文集+確認問題集』を活用し、基礎力を育成しながら、確認問題への取り組みを通して到達度の確認を行う。

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
一 学 期	4	Section 1 英語の基本	基礎の確認と応用を通して、より高い英語力の習得を目指す。	例文暗唱および確認問題への取り組み。
	5	Section 2 英語の語順と文の種類		
		Section 3 時 制		
		Section 4 完了形		
	6	Section 5 助動詞		
	7	Section 6 受動態		

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9	Section 7 不定詞	基礎の確認と応用を通して、 より高い英語力の習得を目指す。	例文暗唱および確認問題への取り組み。
	10	Section 8 動名詞		
	11	Section 9 分 詞		
	12	Section 10 関係詞		
三 学 期	1	Section 11 比 較	基礎の確認と応用を通して、 より高い英語力の習得を目指す。	例文暗唱および確認問題への取り組み。
	2	Section 12 仮定法		
	3			

【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】

通常の授業では十分にカバーできない内容を主に学習しますが、決して難易度が高いというわけではありません。これまで英語を読んだり、書いたり、話したり、あるいは聞いたりするときに意識していなかったことを知ることができ、さまざまな練習を通して、よりナチュラルな英語を学ぶことができます。より高い英語力習得へのモチベーションと興味・関心を持って、積極的に取り組みましょう。